

「人と自然と文化が躍動する環境創造都市 - 低炭素型都市を目指して -」

白倉 政司 山梨県北杜市長

皆さん、こんにちは。ご紹介をいただきました山梨県は北杜市の市長、白倉政司であります。今日は私にもこういった機会を与えていただき、大変ありがたく心から感謝を申し上げたいと思います。

北杜市は、日本中がそうであるがごとく、改革をして新しい時代を築こうという大改革の中にあつて、私どもも平成16年11月1日に誕生した北杜市でありますので、合併して6年目を迎えておるわけでありまして。人口は田舎ですので少ないです。約5万人です。面積は逆に広くておおむね東西30キロメートル、南北20キロメートル、600平方キロメートルの市であります。600平方キロメートルというと、東京23区がおおむねこのくらいといわれておるわけでありましてから、ご想像をしていただければありがたく思っているところであります。

私ども北杜市は、昨年大河ドラマの「天地人」でもありますけれども、「天の時」、「地の利」、「人の輪」がいいのかなと自らも申し上げ、市民もそんな思いでいるはずであります。豊かな自然環境を資源として活用しながら、東京から電車で、車で約2時間で来られるところでありまして、ことのほか地の利がいいのかなと、JRの駅も6つもあつたり、インターチェンジも中央自動車道に3つもあつたりという、極めてアクセスのいいところだと思っております。

合併して市民ともども常にチャレンジ精神と、改革意識をしっかり持って都市の礎を築こうと、ベンチャー企業ならぬベンチャー自治体北杜市だと、こんな思いで今かじ取りをいたしているところであります。私の目指す都市像は、人と自然と文化が躍動する環境創造都市ということになるわけでありまして。

この前、皆さんのところにも資料があるようではありますが、環境モデル都市に北杜市も熱く立候補したんですけれども、残念ながら落選したものですから、今日ここで講演すれば、今度は追加がある時は一番に採択されるのかなと思ひながら、厳しい役割でありますけれども、一生懸命役割を果たしていく予定であります。

北杜市を急いで自慢させていただくと、何と言っても日照時間が日本一だということでありまして。これは気象庁が認める現実であるわけでありましてから、大変誇りにしています。そしてまた、ミネラルウォーターの全国の27～28%が、我が北杜市から生産、出荷されていることでもあります。多分今皆さんがお飲みになっている爽健美茶も、コカ・コーラ社でありますのでか

なりの確率で北杜市ではないかと、圧倒的に多いのはサントリーということになるわけですが、何はともあれ環境省の「平成の名水百選」プラス「昭和の名水百選」二百選のうち、3つの名水を持っているのも自慢であるわけであります。1つの自治体で3つの名水を持っているのは北杜市だけですから、この辺も大きな誇りとしています。

話を急ぐと、日本の国蝶はオオムラサキといいますけれども、オオムラサキ生息地日本一としても大変ありがたい誇りとしているところであります。また、今日正式に発表になったのですが、米の食味ランキングというのを毎年やっておりまして、我が北杜市の峡北産コシヒカリが、平成21年度産を含めて5年連続特Aのランクに位置づけていただきました。とりわけ平成20年度産は日本一おいしい米だと言われまして、私ども出雲の国といきましょうか、米を主食とする民族としてみれば日本一おいしい米だと、特Aが連続5年だということも大変ありがたいと思っています。

これも後段で述べますけれども、水だとか環境だとかということは、表裏一体であることだけは確かであるわけであります。だから北杜市もそんな機会に「おはよう！！朝ごはん宣言」をさせていただきました。一言で言えばイメージとして理解していただければありがたいと思いますけれども、あいさつをしよう、きずなを深めよう、あるいはまた、私どもなりに朝ごはんを食べて健康づくりだとか、原っぱ教育だとか、そしてまた、結果として環境に対しても感謝の気持ちをということで、「おはよう！！朝ごはん宣言」をさせていただいたところであります。

また、文化的にも大変最近厚みが増してきたのかなと思います。典型的な話で言うと金田一春彦先生の記念図書館やら、先般お亡くなりになりました平山郁夫先生のシルクロード美術館だとか、市内には幾つかの美術館、博物館、あるいはまた、芸術家等々も在住しており誇りとするところであります。

そんな中で市政の取組としても、8つの町村が一緒になったわけですから、8つの杜づくりを推進しておりますけれども、今日は当然のごとく環境のことについての杜づくりを、今から幾つかあたたかも自慢そうにお話しさせていただきたいと思います。

杜づくりの中で環境日本一の杜づくりということになります。先ほど武内会長からいろいろお話がありまして、私も全く同じような思いで10年、12年ぐらい前から、そんな思いで自分なりに生きてきました。やっぱり人類は産業革命以来、エネルギーを化石燃料に頼り過ぎたと思います。だから有限、なくなっちゃうという問題と、もう一つ、だれが見たって北極に氷がなくなりそうだ、シロクマがいなくなりそうだという問題は異常であります。だから地球的規模

の環境破壊、この2つを考えた時に、どうしてもエネルギーチェンジをしなければ人類は先が見えないぞと、そんな思いで、私もちか10年くらい前からそんな思いでやってきたところがあります。北杜市の低炭素型社会を目指して、今から幾つか具体的な問題を話してみたいと思います。

一つは農業用水力発電を位置づけています。皆さんは専門家の方がたくさんいらっしゃると思いますので規模も想定してください。年間約220万ないし230万キロワットぐらいの出力の、農業用水力発電を位置づけました。私どもの地域は八ヶ岳山麓、いろいろ山はたくさんありますが、急峻な地域でありますので6度くらいありますから、1キロくらい水を引っ張ってくると60メートルの落差が出ますから、農業用水力発電を位置づけました。後で農林省にちょっと怒られました。農業用水路をつくって発電所をつくるのは何だという、後段でも話をしますが、規制緩和の必要性も感じます。

もう一つはNEDOや経済産業省に一生懸命お願いし、働きかけて、太陽光発電の国事業として位置づけてほしい、それをモデル的に北杜市へつくってほしいという話を、平成17年ごろから一生懸命やってきましたが、結果としてありがたいことに認められて北杜市に国事業、NEDO委託事業として、NTTファシリティーズと一緒に組んで太陽光発電研究施設を位置づけることができました。

私は専門的なことはわかりませんが、極めて順調に研究成果が出ているようであります。一言で言えば太陽光発電は、昼間は発電して夜はゼロで、天気が悪ければ発電できなくて、よければ云々という不安定な発電のものを、既存の送電線へどうやって安定的に供給することができるかという実証研究をしています。そして、あわせて9カ国27メーカーのパネルを並べておりました、それぞれの太陽光パネルの特色も、この環境の中で見てみたいというテーマもあるようであります。これを平成22年度まで国事業として実証研究して、そして、平成23年度には北杜市にいただけるということですから、その時は研究所から発電所になって、ちょっとおいしいのかなというふうに思っています。

話を急いで、偉そうに言うわけじゃありませんけれども、私もそんな思いでありましたから、12年ほど前に太陽光発電を我が家にも設置しました。2.4キロワットですから小さいですけども並べさせていただいており、これも当時の営業の人が、大体このあたりは順調に稼ぐからすぐ元を取れるよとか、耐用年数はこの家よりもつなげてばかにされたんですけども、結構営業マンの言うとおりのような実績を上げておって、大体僕も12年くらいで元を取ったのかなと、当時通産省が半分は補助金をくれましたからという感じですが、何かの参考にしてください

い。これにより東京電力から電気代が我が家へ入ってくるというのは、極めて心豊かでありました。

それから、そんなことが評価されて新エネ百選にも、今年のご指定をしていただきましたけれども、これもありがたく思います。そして、その延長上でスクール・ニューディール、今市内の学校にどうせやるならメガソーラーがいいということで、1メガワットを目指して着々と準備し、できるものだったならば平成23年度事業くらいで、学校以外の公共施設にも1メガワットくらいの太陽光パネルを並べよう。そうすれば国事業が2メガワットで、さっき前段で話をしたのが2メガキロワットでありますから、市内には何となくその国事業の2メガキロワットの分が、市内の学校以外の公共施設にも並ぶのかなという思いで今取組をいたしているところでもあります。子供たちも大変関心が高そうであり、うれしく思っておるところでもあります。

また、もう一つ新しい事業として、私どものところは農家ですから、田んぼの土手、結構「のり面」が大きいわけです。この「のり面」へ、みんな南斜面を向いているから極めて日照の価値が高いということで、農業用の農地へ農業用の太陽光パネルを並べることができないかということで今取組をしていますから、これもちょっと農林省から異な顔をされましたけれども、一言で言えばその辺のモデルとして畑地帯総合整備事業の補てんへ、2億円ぐらいかけて国・県で太陽光パネルを並べてくれるようでありまして、大変ありがたく思っているわけであります。

私の家の話をして恐縮でしたが、市民もこの太陽光発電パネルに対しては大変関心が高く、住宅用の太陽光発電パネルも今積極的に並べていただいております、たしか国が1キロワット7万円くらい補助金を出し、私どもが1キロワット2.5万円くらい乗せて今補助をして、普及を図っているところでもあります。

参考までですけれども、平成18年から20年くらいの間に143件、500キロワット、そして、平成21年は今のところ中途ですけれども42件、約300キロワットの希望者が出てきたわけでありまして、だんだん右肩上がりになるのかなと期待をしております。一言で言えば、できるものだったならばこの日照時間の長所を生かしながら、北杜市まるごとメガソーラーみたいなイメージで頑張っていきたいなと思っています。

また、次にエコカーの話をさせていただくとするならば、今うちもエコカーに対しては大変関心がありまして、昨年8月は2週間、環境省から燃料電池自動車、水素自動車をお借りして市民に親しんでもらったり、理解を求めました。一昨年は4カ月間、6台、電気自動車を市内のあちらこちらで走らせましたけれども、意外にいろいろな意味で私ども行政が心配する必要

はないと、市民はかなりのレベルでこういう関心が高いのかなというふうにも思ったところがあります。

今はどこの自治体もそうだと思いますけれども、クリーンディーゼルだとか、いろいろな意味でエコカーに対しては関心が高いわけですが、市民もバイオディーゼル燃料を使用する公用車を導入すると、市民のほうから市民発意で市内から随分、廃食油を燃料にという取組を自主的に始めてくれて大変ありがたいと思っているところでもあります。

また、一昨年には、これはJRが頑張ってくれたんですけれども、「小海線」というのがあります。国鉄の時代では最高峰を走っていた電車ですが、2007年の夏よりハイブリッド車両で営業をいたしております。これは皆さん多くの方がご存じだと思いますけれども、床下にディーゼルエンジンを置いて、そして、屋根にリチウム電池を置いてブレーキをエネルギーに蓄えておいて、発進の時はそのエネルギーを使うというような感じのようですが、これもおもしろい今日的な仕組みであります。

もう一つ、自らもありがたいと感謝していますけれども、先ほど武内会長からもちょっとお話がありましたが、いろいろな意味で環境を守っていくには行政だけではいけない。お金も含めて民の力も借りたいということで、先ほど誇りにしたミネラルウォーター、私なりにミネラルウォーター税を位置づけたわけでもありますけれども、県の指導や国とも相談する中であって、税でなくて協力金でということで業者の皆さんにもご理解をしていただきました環境保全協力金であります。環境を保全していくには行政だけでなく民も等しく位置づけていこうという思いでありまして、これは平成19年度からスタートしましたが、20年、21年と、金額は差し控えさせていただきますけれども、大変ありがたいご協力をいただいているところでありまして、低炭素社会環境を保全すると、ソフト事業を中心に実施いたしているところでもあります。

私たちの北杜市は75%くらいが森林ですので、先ほどのお話にもありましたとおり、どうしても環境、低炭素ということを語る時には、森林と即イコールで考えていかなければなりません。いろいろな意味で高齢化を迎えて山が荒れたり、田畑が荒れてきていることは確かであるだけに、何と言ってもふるさとを守るには森林を守ること、環境を大切にしていくには森林を大切にすることが非常に重要だと思います。

私もいささか登山をするのですが、年に一度ぶっつけ本番で毎年3,000メートルくらいの山に登っています。今日は南アルプスの市長さんも見えていますけれども、ともども南アルプスを世界遺産にという、言ってみれば闘いというかお願いをしています。

この話はこっちへ置かせていただいて、南アルプスへ登っても、中央アルプスへ登っても、

北アルプスへ登っても、共通してベテランの登山家が言う話は、高山植物が年々減っている、どんどんなくなっているよと、こういうことでもあります。これも酸性雨の問題やいろいろあるかと思いますが、何はともあれ広く森林を守ったり山を守ることは、大変環境の上でも大切だと思います。

私もそんな思いで市長になって6年目を迎えておりますが、北杜市の里山整備という問題は、行政の大きな柱としてやっておるところでありますけれども、何せさっき言ったとおり600平方キロメートルの75%が森林ですから、大変な面積とは申しませんが、おかげさまで地主、里山は、600ヘクタールから800ヘクタールくらいこの5年間で整備をしてきてCO₂削減を、そんな思いで今頑張っているところでありまして、ご理解をいただきたいと思います。

今後の展開といいましょうか、思いでありますけれども、やっぱり美しい豊かな自然環境を守り未来に引き継いでいくことが、何と言っても人類共通の大きな重要な柱だと思います。太陽光発電施設は、さっき言いましたとおり平成23年度から北杜市の施設になるわけでありまして、これらを象徴としながら頑張っていきたい。

あわせてスクール・ニューディール構想、子供のころから環境教育を醸成していくことが、何と言っても大切だなというふうに思っております。北杜市は環境学習というのが大変熱心であるわけでありまして、この辺の底辺を広げることが、先ほど日野市長さんもおっしゃっていましたが、将来に向けて非常に重要なことだと自らも思っているところでもあります。

結構環境省の皆さんも北杜市にはエールを送っていただきまして、一昨年は「全国名水サミット」を開催しました。今年は一言で言えば「星サミット」を北杜市で開いて、広く環境に対して地域住民、子供たち、環境教育を一生懸命やって底辺を広げていきたいなと思っておるところであります。

一言で言えば低炭素というか環境を守ることについては、何でもやろうという思いでありますので、ご参加の皆さんもそういうことに大変うんちくのある、あるいはまたいろいろな意味で興味のある方々だと思いますので、北杜市にウインクしてくれば大変ありがたく思っているところでもあります。

今年は何とか単に都会だけでなく私どもも、「緑のカーテン」というんですか、ビルへ「ツタ」をはわせることも、モデル的に仮庁舎ではありますが、学校を利用した市役所へ並べてみて、さっき言いましたとおり、いいということは何でもやろうという思いで、その辺も位置づけてみたいな思っているところでもあります。

もう一つ、やっぱりこれからは、別に政治的背景は何もないですけども、自民党のころ

「地方分権」と言いました。民主党政権になって「地域主権の確立」という言葉が、内政一丁目一番地のようにありますけれども、共通して言えることは、自分たちのふるさととは自分たちで自己責任でと、こんな時代だと思います。

だからどうしても私どもの北杜市の能力だけでは限界がある。いろいろな連携プレーが必要だなというふうにも思っています。その連携プレーは、単に隣の自治体だとかその自治体とかということだけでなく文字どおり共通する課題、共通の目標を持ちながら広く連携をすることが、非常に重要ではないかというふうに最近思います。

そんなことを思っていましたならば、固有名詞が出てごめんなさい。早稲田大学とか東京芸術大学とも北杜市は、産学官のような意味合いを込めて連携協定を結んで今やっておるわけにありますけれども、子供たちの目、都会の観点で見る北杜市をフィールドで語ってほしいということが、一つの大きなねらいであるわけにあります。

これも言っていないかわかりませんが、毎日新聞の夕刊に大きく出たようですから言わせてもらおうと、太陽光発電に対してもう一つ太陽熱発電を、東工大が一生懸命北杜市へウイंकしてくれていますので、その辺のフィールドも提供しながら、いろいろな意味で今日のようなテーマに向かって全力で頑張っていきたいと思っていますところでもあります。

北杜市は、年間約700万人くらいが訪れてくれる観光立国ならぬ観光立市でもあることは確かであります。観光資源と新エネルギー施設をつなぐエコツーリズム型の次世代エネルギーパーク構想を持って、これからも頑張っていきたいと思えます。

環境とかエネルギーは、地球の赤信号だと述べる人がたくさんいらっしゃいます。確かに人類の大きな課題だと思います。そんな中であって北杜市も、あえて都会と豊かさの肩を並べっこする必要はない。北杜市は豊かな自然を売りにしながらとりわけエコ、低炭素、そんな問題を大きなテーマとして、それを売りにして、それを「ベンチャー自治体北杜市」の長所としながら頑張っていきたいと思っていますところでもあります。ぜひひとつ機会があるごとに訪れていただいて、ご指導賜れば大変ありがたく思います。ありがとうございます。